

次の世代に継ぎたい大切な宝物「北海道遺産」フォトコンテスト。昨年にも増して、四季折々の表情、また感性豊かな作品を老若男女問わず数多くお寄せいただきました。ご応募いただきました方々へ、この場をお借りいたしまして深く感謝申し上げます。入賞・入選されました素晴らしい作品を、ぜひご覧ください。

講評 ～ フォトグラファー 岸本 日出雄 氏

応募作品は甲乙つけがたく魅力あるものが多数ありました。その中の選りすぐりの入賞作品です。鑑賞者の目を大いに楽しませてくれることでしょう。格好の被写体に恵まれている北海道ですが、題材が限定されているフォトコンテストにおいては作品の完成度に大きく作用するのが季節や時間帯の選択、及び構図です。多くの撮影者はその辺を心得ていて工夫を凝らしている点が見受けられ感心しました。そうした努力のあとを嬉しく感じつつも有名な場所に集中しがちだったのは少し残念に思いました。

北海道遺産の発信力には伸びしろの余地がまだまだあるはず。今後、コロナから解放されて主催者を裏切るような新鮮な表現力を期待してやみません。



北海道遺産フォトコンテスト
イメージキャラクター
「ハリス」



あなたが伝えたい北海道遺産を、感じたままに撮ってみよう！
北海道遺産フォトコンテスト2022
入賞・入選作品発表 作品テーマ「あなたが伝えたい北海道遺産」



■主催：NPO法人 北海道遺産協議会 ■協賛：サッポロビール株式会社 ■後援：北海道、札幌市、札幌市教育委員会、北海道新聞社



恵比寿・大黒岩の夜明け [撮影/余市町 2017年2月]

積丹半島と神威岬

●坂口 正剛 様(江別市)

【撮影者コメント】
雪を被った奇岩が冬の朝日に焼ける空に浮き上がりとても美しかったです。



【岸本 日出雄 氏 講評】

微妙な雲の色合いが狙いどころとなる夜明のシーンですが、こちらは雲の淡いグラデーションに加え、片やどっしりとした岩、傍らに危うさを感じさせる岩と、二つをバランスよく捉えています。カメラを構えた位置が的確でドラマチックな作品に仕上がっています。わずかに積もった雪の白も実に効果的。天候に移り変わりのハラハラしながら狙った場所に何回も通うという話を度々聞きます。撮影者も今回は期待通りと満足したのでは。



ゴールドの輝き [撮影/神威岬 2021年7月]

積丹半島と神威岬

●加藤 良明 様(札幌市)

【撮影者コメント】
神威岬の名のごとくゴールドに輝く海、絶景でした。



静寂の刻 [撮影/糠平湖タウシュベツ川橋梁 2020年9月]

旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群

●佐々木 郁太郎 様(札幌市)

【撮影者コメント】タウシュベツ川橋梁と草紅葉と木の根の荒涼とした世界。静寂が廻りを包み込んでいました。



【岸本 日出雄 氏 講評】

手前に大きく配置された枯れた切り株、そして奥へと誘われた目をひく朽ち果てかけ放置された橋梁。遠近を強く演出した構成力に感服。まさに開拓の夢が破れた北海道を象徴するような作品となっています。そして、こちらの写真の魅力を倍増させているのが、空模様です。どこか不穏な雰囲気を感じつつ、唯一ダイナミックな動きを見せている様子に遭遇できたのは幸運でした。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



北海道遺産とSDGsのつながり

SDGsとは、国連が定める2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標です。北海道遺産として、豊かな自然・文化・歴史を伝え、保全していく事は、3つのSDGsの目標につながっていくと考えます。

- 8.働きがいも経済成長も
- 11.住み続けられるまちづくりを
- 12.つくる責任、つかう責任

サポーター募集中!! 北海道遺産協議会では、北海道 遺産の取り組みを応援して下さるサポーターを募集しております。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

特典			スペシャル特典	▶詳しくはお問合せください。 NPO法人北海道遺産協議会事務局 〒060-0041 札幌市中央区大通東 2丁目3-1 第36桂和ビル7階 TEL: 011-218-2858 FAX: 011-232-4918 Email: info@hokkaidoisan.org http://www.hokkaidoisan.org/supporter.html
会員証	情報紙 (年3回程度)	年度特典 (2022年度は) トートバッグ	★初年度に限り 「ほっかいどう遺産WAON」と、 「ピンバッジ」 プレゼント 	
メールニュース等の 情報発信	HP、情報誌などへの 法人・団体名、 個人名(希望者)の掲載			



余韻 [撮影/札幌市南区石山緑地 2022年9月]

札幌軟石

●山内 佳子 様(札幌市)
【撮影者コメント】
石山緑地で行われた、いしやまキャンドルナイト。キャンドルに浮かび上がる神秘的な札幌軟石をバックに、心に響く音楽と歌のイベントが終わった後を撮影しました。素敵な夜でした。



candlelight [撮影/余市町 2018年7月]

積丹半島と神威岬

●坂口 哲裕 様(石狩市)
【撮影者コメント】
燃えるような朝焼けが綺麗でした。



黒牛と宗谷丘陵 [撮影/稚内市宗谷丘陵 2018年6月]

宗谷丘陵の周米河地形

●佐々木 亮子 様(豊富町)
【撮影者コメント】
いつも宗谷丘陵の遠くに見える黒牛が、珍しく近くで草を食べていました。カメラを向けると不思議そうに近づいて来てくれました。



悠久なる [撮影/タウシュベツ川橋梁 2020年10月]

旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群

●石川 了輔 様(群馬県前橋市)
【撮影者コメント】
他の撮影者のライトが入って失敗が続きましたが、3日間かかってようやく90分間の1枚撮りができました。



眠る記憶 [撮影/三菱美炭炭鉱跡 2019年9月]

空知の炭鉱関連施設と生活文化

●高岡 文子 様(札幌市)
【撮影者コメント】
室内のモニュメントと外の立坑巻き揚げ機を対比させ、窓ガラスの反射を利用して雲や草を画面に入れることで、時空の流れを表現してみました。



軟石のオブジェ [撮影/石山緑地 2020年6月]

札幌軟石

●日野 透 様(札幌市)
【撮影者コメント】
札幌軟石は明治時代から昭和初期にかけて札幌市、小樽市周辺の建築資材として使用された。この軟石は札幌資料館の建物にてつとに有名であるが、本当に雰囲気のある美しい石材。恣意的にモノクロで撮ってみた。



母川回帰 [撮影/増毛町信砂川河口 2022年9月]

サケの文化

●田中 義秋 様(札幌市)
【撮影者コメント】
外洋での長旅を終えた鮭は、産卵のため故郷の河川へ遡上します。繁殖という最後の役割を果たすため、必死に上流を目指し生命力に感動を覚えます。



風の踊り子 [撮影/稚内市 2017年4月]

宗谷丘陵の周米河地形

●平瀬 正人 様(札幌市)
【撮影者コメント】
人と自然が共存する丘の上に、白い踊り子達が今日も舞う。



朝陽に浮かぶ [撮影/摩周湖展望台 2021年9月]

摩周湖

●畑端 憲行 様(新ひだか町)
【撮影者コメント】
静かな夜明け、湖面を照らす朝陽がさらに神秘さを増す。



石狩川終着(河口) [撮影/石狩市 2019年7月]

石狩川

●山崎 久子 様(札幌市)
【撮影者コメント】
永い旅が終わり海へ、鶴に迎えられて。



松浦武四郎銅像 [撮影/小平町 2021年10月]

松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡

●永井 和子 様(旭川市)
【撮影者コメント】
ニシン街道、アーチモニュメントに立つ銅像に刻々と迫る夕陽が射し込んできました。(銅像はシルエットですが、国道沿いなので有名です。)



鮭増殖作業 [撮影/知内川ウライ 2019年11月]

サケの文化

●竹田 徹夫 様(知内町)
【撮影者コメント】
11月下旬の凍てつくような川に入ったの増殖作業、本当に頭の下がる思いでした。



おさげ髪 [撮影/酪農学園 旧エクステンションセンター 2022年7月]

江別のれんが

●江崎 絹枝 様(江別市)
【撮影者コメント】
大学の方から教えて頂いた「お洒落な女の子の顔」の建物。樹々に囲まれ、おさげ髪を連想させる煉瓦の装飾は見事です。



朝焼けを映して [撮影/摩周湖第1展望台 2021年6月]

摩周湖

●西川 文彬 様(札幌市)
【撮影者コメント】
夜明け前、静寂の湖面を朱く染める。



見守り隊 [撮影/石狩川河川敷 2022年6月]

石狩川

●長谷川 千晶 様(札幌市)
【撮影者コメント】
曇りで夕暮れでも空が赤く染まらずに撮影を諦めて帰りがけていた時に、大きな太陽が沈む姿が印象的でした。